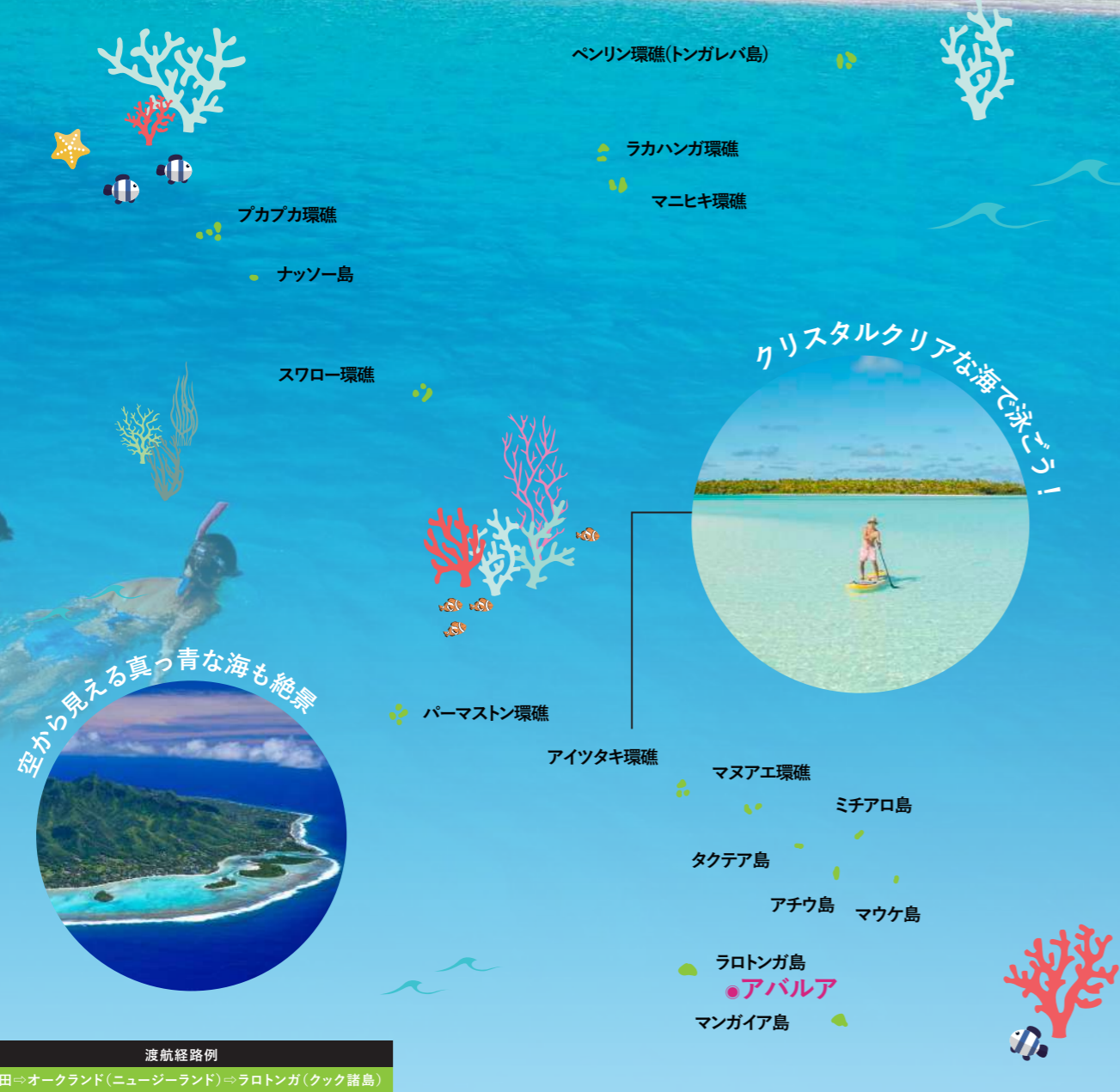


COOK ISLANDS クック諸島

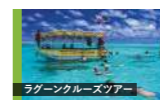
太平洋に眠る宝島

ニュージーランドとの自由連合関係を維持しているクック諸島は、赤道を挟んでほぼハワイの反対側に位置しています。15の島々からなるこの国の総面積は、237km²で、日本の徳之島とほぼ同じ広さでありながら、年間10万を超える観光客が訪れます。これら15の島々は、赤道寄りにある北側と、南側に分けられます。観光で初めて訪れる方には南側がおすすめ！首都アバルアのあるラロトンガ島や、美しいラグーンで有名なアイツタキ島、オーガニックコーヒーが作られているアチウ島などがあります。リゾート気分ビーチでのんびり過ごし、フィッシング、カヌー、ウィンドサーフィンなどのスポーツを楽しんだり…まさに夢に描いたような楽園の風景がクック諸島であなたを待っています！



初級モデルコース 短期間でもクック諸島を満喫

- 1日目
PM ● ラロトンガ島到着！現地ドライバーの運転でホテルへ、翌日から一杯遊ぶため、旅の疲れをゆっくり癒やす
- 2日目
AM ● 首都アバルアの繁華街を散歩するため、スクーターをレンタルする日本の免許証と申請料を準備して警察署へ。免許証を発行してもらおう
毎週土曜日に開催されるブナンガヌイ・マーケットでは、地元フードやビーチドレスなどのお買い物ができる。クック諸島の特産品、黒真珠のアクセサリーのお気に入りの見つけ
- PM ● 島内で最も美しいと言われるムリ・ビーチへ
ウィンドサーフィン、SUP(サップ)、シュノーケリングなどあらゆるマリンスポーツを楽しめる
おすすめはグラス・ボトムボード！海の上から珊瑚礁と色とりどりの魚の群れを眺めよう！
夜は、迫力満点のダンスショー「アイランドナイト」をクック諸島の地元料理を食べながら鑑賞！
- 3日目
AM ● 日曜日のミサに参加してみよう！地元の人々が温かく迎えてくれる。住民のほとんどはポリネシア文化を尊重しながらも、キリスト教徒で日曜日は熱心に教会に通っている
- PM ● パワフルな4輪バギーに乗って、ラロトンガ島の大自然を巡るツアーへ！
ガイドさんの案内で美しい滝を訪れアドベンチャーを楽しむ
美しい海の高うに沈んでいく夕日を眺めながらディナーを堪能
- 4日目
AM ● 国内線でひとつ飛び！世界屈指のスーパーラグーンを見に、アイツタキ島へ行こう！アイツタキ島を満喫できるラグーンクルーズツアーに参加。シュノーケリングやネイチャーウォークを楽しむ
- PM ● ツアーで一緒になったメンバーとともに、美しい海を眺めながらBBQランチを楽しむ
アイツタキ島最南島にある無人島、ワフットアイランドへ。世界で唯一の無人島にある郵便局で、旅の記念になるお手紙を出そう！
国内線でラロトンガ島へ戻る
- 5日目
AM ● 日本へ向けて出発



中級モデルコース 大自然を舞台にしたアクティビティをやり尽くす

- 1日目～2日目
● 初級編と同じ
- 3日目
AM ● 国内線でアイツタキ島へ。空の上から見ても海の透明度は抜群！ホーンフィッシュを狙ってフライフィッシングにチャレンジ！他にも、カジキ、マグロ、シイラなどを釣ることができる
- PM ● シェフにお願いして、釣った魚を使って地元料理を作ってもらおう！
夜はポリネシアスタイルのバンガローに宿泊し、異国情緒を満喫しながら眠りにつく
- 4日目
All day ● ホエールスイムツアーでクジラと泳ぐ忘れられない体験！
毎年7～10月は海でサトウクジラに出会えるチャンス！国内線でラロトンガ島へ戻る夕日を眺めながら地元食材を使った絶品料理を味わう
- 5日目
AM ● 国内線で、「バードアイランド(鳥の島)」と呼ばれるアチウ島へ。ガイドさんの案内でアナタキタキ洞窟へ。カチカチと鳴く珍しいコベカという鳥に出会うことができる
- PM ● 狭い崖を降りていくと、洞窟の底にある淡水の池に到着
キャンドルの光で透明な水の中を泳ぐ幻想的な体験ができる
島でとれたフルーツで造られた地酒トウムヌをいただきながら、島の人々と交流する郷土料理「ウムカイ」を堪能する
- 6日目
AM ● コーヒー農園へ見学に出かける
- PM ● キャプテンクックが上陸した記念地、クックス・ランディングへ。美しい海岸で記念撮影
国内線でラロトンガ島へ戻る
クック諸島の郷土料理、生魚と野菜のココナツ和え「イカマタ」を堪能！
- 7日目
AM ● ガイドさんとともに、島を横断するトレッキングツアーへ！
クック諸島最後のアドベンチャーに出かけよう！
ラロトンガ島の上にそびえ立つ奇岩「ア・マンガ(針の意)」にも立ち寄れる森の中や溪流沿いを歩きながら、希少な植物や鳥をみることができる
- PM ● 旅の思い出に浸りながらビーチでのんびり過ごす
夕日と海の絶景を眺めながらディナー
最後の夜はダンスナイト☆地元の人で賑わうクラブで踊り明かそう！
- 8日目
AM ● 日本へ向けて出発



Q 1798年、イギリスの捕鯨船船長ジョン・フェーンが、西洋人として初めてナウルに到達し、この島を「心地よい島(Pleasant Island)」と呼んだと言われています。同じく、クック諸島に到達したイギリス人で、この国の名称の由来ともなった人物は誰でしょうか？

A 答えは p.24 に！

コラム 1 宝が眠る島スワロー環礁

ラロトンガ島から825km北西方向に位置するスワロー環礁。住んでいるのは、国から派遣された管理人と、海鳥、そしてカニ！定期船の運航はないため、ここへ行くには、自家用ヨットかクルーズ船をチャーターするしかありません。実はこの島、スチーブソン著書の『宝島』のモデルになったと言われています。19世紀中ごろ、沈没船の引き揚げ作業をしていたところ、環礁内の小さな島から金銀硬貨の入った箱が見つかったんだとか。どこかに宝が眠っていると思うとワクワクしますね！

コラム 2 日本で人気のあのキャラクターまで？ 記念に買いたくなるクック諸島のコイン

外貨獲得の手段として製造されているという記念通貨。クック諸島の記念コインはコレクターの中でも有名なんです！特に高い人気を誇っているのが傑作芸術シリーズ。モネやゴッホの作品がカラーでコインになっているのです。中には日本の新幹線のデザインも。あなたのファン心をくすぐるデザインも見つかるかも…！

オンラインコンテンツを楽しもう

さらにクック諸島の情報を知りたい方はクック諸島観光局のウェブサイトへアクセス！現地でのツアーや体験プログラムの詳細を確認することができます。